

御前崎港

静岡県交通基盤部港湾局

〒420-8601 静岡市葵区追手町9-6

☎054-221-3051

URL : <http://doboku.pref.shizuoka.jp/desaki2/omaezakikou/>



1. 概況

〈沿革〉

御前崎港は、駿河湾の湾口部に位置しており、御前崎台地の岬によって季節風が遮蔽され、静穏な水面を有する恵まれた地形にある。近辺海域は、速い潮の流れに加え、風波が激しく、岩礁も多く点在した船舶航行上の難所として知られていた。このため、当該地域に避難機能を確保することにより、昭和11(1936)年に避難港の指定を受けたが、第2次世界大戦で工事の着手にはならなかった。ようやく修築工事に着手できたのは昭和23(1948)年、完成は昭和35(1960)年であった。

この間、地方港湾の指定(昭和26(1951)年)を契機に、諸施設の規格も暫時拡大され、次第に避難港及び漁港的性格から商港的性格に変貌していったため、昭和46(1971)年の国際貿易港の指定に伴い、開港後初めて外国船舶が入港して、木材(原木)46,000トンの荷揚げが行われた。

さらに昭和50(1975)年、重要港湾に指定されたため、昭和51(1976)年7月に港湾計画を策定、木材取扱港から多目的利用を主眼とした流通港湾へ発展する計画を位置付けて、3万トン級岸壁2バースや水面貯木場、施設用地、工業用地の整備を進めた。昭和61(1986)年には初の大型岸壁(-12m)が供用を開始し、以降順調に港勢を拡大して、平成3(1991)年からは首都圏～九州圏を結ぶ内航定期船(RORO船)が就航、平成9(1997)年には北米向けに自動車の輸出が開始された。

平成6(1996)年8月の港湾計画改訂では、静岡県西部地区の流通の拠点となる高度な機能を持った港湾として整備を進めることを目的とし、他港で取り扱われている背後地域貨物の適切な取込み、外貨貨物輸送の一層の拡大、船舶の大型化等に対応した、鉄鋼、石炭、コンテナ等の外貨、石炭等の貨物を取り扱う「多目的国際ターミナル」の整備などを位置づけた。平成16(2004)年には、ガントリークレーン2基と-14m岸壁を有する多目的国際ターミナルが供用開始し、県中西部における物流・産業拠点として重要な役割を担っている。

また、快適で潤いのある水際空間を創造するため、延長820m、面積131,200㎡の人工海浜を含む緑地公園「マリンパーク御前崎」が整備され、平成7(1995)年に人工海浜が、平成18(2006)年に休憩所や子供向け遊具等が整備され、毎年多くの海水浴客が訪れる賑わい拠点となっている。

〈現況〉

御前崎港は、優れた海上アクセスに加え、ここ数年、御前

崎港周辺道路の整備が急速に進められた。御前崎港への陸上アクセスは、東名高速道路相良牧之原ICから地域高規格道路「金谷御前崎連絡道路」を經由して約20分の所要時間となっている。また、国道150号の4車線化や、「金谷御前崎連絡道路」の延伸整備による富士山静岡空港への直結など、陸・海・空の広域交通拠点が結ばれ、物流・人の交流拠点、臨海性産業の集積の場としての御前崎港の役割がますます高まっているところである。

民間や市町で設立した「御前崎港ポートセールス実行委員会」は、このような地域ポテンシャルを最大限に活かしてポートセールスに積極的に取り組み、御前崎港のさらなる港勢の拡大を図っている。

令和元(2019)年の取扱貨物量は外貨166万トン、内貨120万トン、合計286万トン、コンテナ取扱個数は外貨1.8万TEU、内貨2.2万TEU、合計4万TEUを扱っている。

また、みなとを核とした地域振興の取り組みとして、平成27(2015)年に風光明媚な海岸と海洋レジャーの拠点として「みなとオアシス御前崎」に登録されたことや、「御前崎港客船誘致協議会」の熱心な誘致活動の取り組みにより令和元(2019)年8月には客船「ばしふいっくびいなす」が初寄港するなど、地域のにぎわい・交流の拠点としてさらなる発展も期待されている。

〈これからの御前崎港〉

今後、引き続き自動車輸出など、県西部地区の物流・産業の拠点としての役割を果たすとともに、臨港地区内においてバイオマス発電所の稼働が予定されていることから、再生可能エネルギー振興に寄与する港としてもますます発展していくよう必要な施策を実施していく。